

水環境創造事業の思い出



多度津町長

小國 宏
Oguni Hiroshi

多度津町は、香川県のほぼ中央に位置し、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園、南は緑豊かな讃岐平野が広がり、美しい自然に恵まれた温暖な土地柄であり、昔から港町として、また鉄道の発祥の地として栄えてきた歴史あるまちです。

平成12年には、町制施行110周年を迎えた意義ある年として「環境のまち」宣言が行われました。さらに平成14年には、ISO14001を取得し、21世紀に向けた「循環型社会の構築」をめざして、「人・環境・まちづくり」を基本とした夢ある住みよい町政を推進しています。

香川県は、その地理的条件から歴史的に慢性的な水不足に悩まされており、平成6年夏には高松市など香川県下で取水制限率75%と、長期的な水不足を記録しました。本町は、その異常渇水においても、幸いにして地下水に恵まれた町であるため、断水は回避できました。

この苦い経験から、平成9年度に安定的な水資源を確保すること、さらには昔のように自然があって水路には水が流れ、ほたるが飛ぶような環境を求めることを目的に「水リサイクル検討協議会プロジェクトチーム」を発足させました。このプロジェクトチームにおいて再生水の利用に関する事業企画を立案し、ルート選定、制度上の問題点の検討、国の補助制度の分析等に約3年の期間を費やしました。

その結果、当町内にある施設であり、1市3町で下水を処理している香川県中讃流域下水道金倉川浄化センターの放流水日量10,000tを新たな水資源とする「多度津町再生水利用計画」を平成12年度に策定しました。この計画は、10,000tの放流水をポンプで水環境処理施設まで還元し、再度高度処理を行なって多目的に利用するもので、渇水時にも安定した量を供給できるよう農業用水に2,000tを、河川の水量不足による悪臭の発生等を解消できるよう河川浄化用水に5,500tを、また、公園施設等で利用する親水用水に2,455t、水辺空間を復活させるせせらぎ用水に45tを供給するというものです。

この事業を実現させるため、国土交通省下水道部を中心にまず理解を求め、農林水産省、環境省、香川県と多くの関係機関に関わり、それぞれの指導を受けました。一つの水資源を多目的に再利用するという、各省庁の垣根を越えた事業として初の試みでしたが、平成12年4月に当時の建設省の石川下水道部長より「新世代下水道支援事業制度水環境創造事業」として優れた計画であると認定書をいただきました。

そして、その事業化の際には、国土交通省の曾小川下水道部長よりご紹介いただいた松尾友矩東洋大学学長に助言を求めました。当時、東京大学の教授をしていらっしやった松尾先生からは、「下水道というイメージだけでとらえてはいけません。環境事業の素晴らしいアイデアである。失敗を恐れたら新しい事業はできません。勇気を持ってやりなさい」とおっしゃっていただき、こうした方々の温かいサポートがあって私共の事業が誕生できたと思っています。

多くの方々の支援により、施設は平成16年3月に完

成し、竣工式典には国土交通省の谷戸下水道部長をはじめお世話になった多くの関係者にご出席いただきました。完成後は、毎年のように多数の行政視察等もしていただいております。特に、昨年10月には松尾学長、さらに本年1月には江藤下水道部長のご紹介により、浅野カルフォルニア大学名誉教授、大垣東京大学大学院教授ほか11名が来町されました。その後、下水道新技術推進機構による「再生水利用シンポジウム」が、東京、大阪で開催され、東京会場では皇太子殿下のご臨席もいただきました。私共も出席させていただきましたが、再生水利用の大きな流れを感じさせるものでした。

現在、多度津町では下水再生水を活用することによって、安らぎある町空間を創出することに成功しています。せせらぎ水路で子供達が鯉の餌やりを楽しむ姿、また工業高等学校の前を流れるせせらぎ水路では、生徒らによる清掃活動も行われています。「ほたるの里」では、人々が飛び交うほたるの姿に接して昔の自然を思い出すでしょうし、農業用水によるため池の水の浄化や用水路における生物の復活など、少しずつ自然環境が取りもどせていることで町民の心も豊かになってきていると感じています。そして、この事業は次世代の子供たちに引継ぐことができる自然環境という大きな財産になっていると自負しています。

最後になりましたが、この事業に携わっていただきました国、県の関係機関の多くの方々にお礼を申しあげるとともに、今後とも水質管理や維持管理について、さらなる工夫と研鑽に励んで、これからもこの水環境創造事業を「環境のまち多度津」のシンボルとして育んでいきたいと思っています。